

バングラデシユ
出身の医師

医療支援に生薬活用

大和生物研薬科工場を視察

ササヘルスの製造現場を見学するバルアさん
(右から2番目)と大澤さん(右から3番目)



東京農業大学理
事長の大澤貴寿
さんも視察に同
行。大泉社長ら
の案内で、クマ
ザサのあく抜
き、抽出、ろ過
などを行う抽出
室や、抽出液を
瓶に詰める充
填室、包装室を
見学した。4日
には、来年5月
の一般公開を目
指し、工場敷地
内に整備を進め
ている「薬科種
類植物園」も見
た。

バルアさんは
「貧しい国で
は、植物など周
囲の物を使い、
自分の健康は自
分で守るしかない。日本の技
術を今後も学び、発展途上国
の人たちに伝えたい」と話し
ていた。

自身もバングラデシユの孤
児院の支援事業に携わってい
る大泉社長は「現在、有機農
法を活用したプロジェクトを
進めており、今後の可能性を
探る上でも有意義な機会にな
った」と話していた。

(牛山義章)

バングラデシユ出身の医師
スマナ・バルアさんが5日、
医薬品など製造販売の大和生
物研究所(川崎市)の薬科工
場(茅野市玉川)で、クマザ
サを原料とした医薬品「ササ
ヘルス」の製造工程などを視
察した。世界保健機関(WH
O)でハンセン病対策を担当
し、発展途上国の地域医療支
援で生薬も活用しているバル
アさんは、同社のノウハウを

学び、今後の活動に生かそう
と訪れた。
バルアさんは、地域医療を
学んだ佐久総合病院(佐久
市)の医師と交流を続け、師
と仰ぐ同病院の故若月俊一名
誉院長の墓参も兼ねて毎年8
月に来日している。同社の大
泉高明社長は、共通の友人で
ある同病院の医師を通じて紹
介されたという。
大泉社長と長年親交のある